

苦節を乗り越えた水戸ホーリーホックの躍進に迫る

小野 亮太

はじめに

筆者の地元である茨城県にあるプロサッカークラブ「水戸ホーリーホック」が2019シーズン開幕から躍進を続けている。長年下位の順位にとどまっていたが、16試合終了時点でJ2全22チーム中2位につけている。この躍進の裏には様々な背景が潜んでいるに違いない。茨城県のプロサッカークラブというと、国内最多タイトルを所持している日本屈指の強豪鹿島アントラーズがすぐ浮かび上がるかもしれないが、その影で着々と力をつけている県内もう一つのプロサッカークラブ水戸ホーリーホックに着目していきたい。本文では、クラブの歴史に触れながらJ1昇格に向けた取り組みについて述べていく。

(1) クラブの歴史（以下は水戸ホーリーホックに関するウェブ上の2つのサイト¹を要約したものである。）

水戸ホーリーホックは元々1990年に茨城県土浦市のサッカーの愛好家を中心となった企業チーム「プリマアセノFC」を母体としていたクラブだが、土浦市内ではJリーグはおろかJFL²開催のスペックも満たせるスタジアムがないため、クラブがJFL入りを決めた1997年に、水戸市のクラブチームであったFC水戸へ編入する形で本拠地を移転している。

ところが、水戸市の当時の市長だった岡田氏がサッカーに興味を持たなかった影響もあり、行政支援は一切行わないという姿勢を貫いていた。行政側はホーリーホックを冷遇し、水戸市の陸上競技場もJリーグを開催するためのスペックにあわせる工事への予算を認めなかったため、1999年発足のJ2加盟申請をするも認められず、JFLに残留となってしまった。

その後2000年にJ2昇格を決めたが、当時水戸はホームタウンにJリーグ基準のスタジアムを持っていない状態だった。さらに経営においてもスポンサー企業が支えているわけではなく、初代社長の故・石山徹氏の個人の財産で支えられて運営されている状態だった。明確な基準で審査されてライセンスが発行される今ならば、間違いなくJリーグに上がることはなかっただろう。しかし、当時は「Jリーグの仲間を増やしていこう」という風潮があった。水戸市のスタジアム改修のめどは一切立たなかったが、クラブはとりあえず、2002年に東海村・笠松陸上競技場のJ1も開催可能なインターハイ対応の改修が終わるまで、特例でJ1・J2基準を満たしていないひたちなか陸上競技場を間借りすることでJ2入りを認められ、Jリーグ参入となった。

しかしそこからが苦しみの連続であった。地域と密着する「市民クラブ」と謳いながらも水戸市に活動拠点を持たないため、ホームタウンと密接な関係を築くことができず、スタンドは毎試合空席が目立つ状態であった。そのためスポンサーも増えず、さらに2008年には当時の宮田裕司社長の飲酒運転が発覚したことによってスポンサー離れも進み、経営難に拍車がかかった。クラブはいつまでも希望を抱けない状況が続いていた。

その後岡田氏辞職後、水戸市がようやく重い腰を上げ、水戸市内に練習場の建設、更に陸上競技場（ケーズデンキスタジアム）の改修も認められ、2009年の11月に念願の水戸市への移

転が実現した。これにより風向きが変わる予兆を感じながらも、それまでの赤字経営のツケは大きく経営改善には至らず、2008年途中から社長へ就任した沼田邦郎氏は、11年の新体制記者会見の前に経営危機の会見を行う最悪のスタートを切る形となった。

だがこれまでの経緯から水戸市民の関心があまりよくなかったのか、観客動員やスポンサー収入では低迷の一途をたどる始末で、2011年にはJリーグ公式試合開催基金から3000万円を融資せざるを得なくなり、さらに追い討ちをかけるかのように2011年3月11日の東日本大震災でクラブは危機的な状態に追い込まれてしまった。

しかし、この2011年を機に水戸は転機を迎えた。ここから見せた変化は劇的であり、それには三つのきっかけがあった。一つ目は、柱谷哲二監督の就任である。かつて日本代表のキャプテンとして活躍し、闘将の名でも知られる知名度の高い監督がやってきたことにより、県内で大きな注目を集めることができた。二つ目は、同年5月の高橋靖市長の就任である。水戸市はクラブがJリーグに昇格した際、水戸市をホームタウンとして認める代わりに、クラブに資金的援助を一切認めないという姿勢を従来から貫いていた。ところが、高橋市長は就任する時に「水戸市を盛り上げるためにホーリーホックを利用しない手はない」と考え、ホーリーホックを支援する方針を固め、同年には出資を決定するなど、サポート体制を整えた。そして三つ目は、東日本大震災である。大きな被害を受けた影響によって茨城県内の経済は滞り、さらにスポンサー離れも懸念された。しかし、未曾有の事態の中だからこそ、クラブが大切にしたのは「市民クラブ」としての原点。それが起死回生につながったのだ。

現市長の高橋氏はクラブの窮地を見て、「水戸の復興のシンボルにするために」と、クラブ再建のために尽力した。クラブスタッフや選手が一同となり地域のための支援活動を行い、地域との距離が縮まった。スタジアムもメインスタンドが一部崩落で応急処置をとらざるを得ない状況でも少しずつ観客を伸ばし始めた。「経営改善計画を立てて、新たなスタートを切ろうとしたところで東日本大震災が起きた。これはもうダメかと思いました。どうしようと考えていたが、とにかく地域復興のために活動しよう。我々のことよりも地域に貢献することだけを考えて活動しました。それによって地域密着が加速したような感じがします。柱谷哲二が来た。そして、高橋靖市長が就任して、はじめて水戸市から出資をいただくこととなった。ポイントは2011年。いろんなことが、ドドドッと動き出した」と沼田社長は述べる。

震災後、スポンサーは離れるどころか、むしろ増えていき、経営は改善されて借入金を期限内に返済することができたのである。11年から3期連続して黒字を達成。経営面の立て直しにも成功した。絶体絶命のピンチが一気にチャンスと変わった。

震災以降、ホームタウン活動は年間600回近く行っており、さらにホームゲーム前には必ず選手たちが水戸駅前でチラシを配布し、来場を呼び掛けている。柱谷監督は継続的に子どもたちを対象にしたサッカー教室を開催するなど、そうした地道な活動が地域との絆を育み、「市民クラブ」としての存在感を示すようになってきている。順位は振るわず下位に低迷。さらにJ1クラブライセンスを取得できないためJ1昇格の可能性がない中での戦いに関わらず、観客数が伸びている。それは地域に受け入れられるようになった何よりの証拠と言えるだろう。

(2) 新たな練習場の創設³

2018年、クラブの新たな練習場として、城里町七会町民センター「アツマーレ」が完成した。廃校となった旧七会中学校を利活用し、老朽化した支所・公民館・バーベキュー施設の機能を1か所に集約した複合施設である。廃校を活用した行政施設とプロサッカーチームのクラブハウスの複合施設は日本初の試みである。

構想から約2年。旧七会中学校の校舎を約3億2800万円かけて改修。水戸ホーリーホックのクラブハウスや天然芝グラウンド2面の練習場だけでなく、城里町役場の支所、公民館も併設した複合施設。生徒の自転車置き場だったスペースにはBBQ施設もオープンする。また、優先利用できる天然芝練習場とクラブハウスが確保できたことは、次の章で説明するJ1ライセンスの取得のへとつながるものであった。

今後、城里町七会町民センター「アツマーレ」は、水戸ホーリーホックと連携し、地域の活性化を図るとともに、地域住民のスポーツや文化活動における地域の拠点施設として位置づけられており、以下の4つの拠点として地域が活性化されることを期待されている。

1. スポーツの拠点

天然芝のグラウンドは、水戸ホーリーホックの練習場として使用される。また、町や水戸ホーリーホックが開催されるスポーツイベントや、地域団体の活動でも使用される。そのほか、トレーニングルームは、町民に無料で貸し出ししており、選手とトレーニング機器を共有してトレーニングに励むことができる。

2. 観光の拠点

観光の拠点だった山びこの郷の機能を引き継ぎ、バーベキューが行える。また、グラウンドでのスポーツイベントと連携した催しを開催していく。

3. 文化の拠点

七会公民館の機能を引き継ぎ、料理教室や絵画教室などの定期講座が行われる。また、中学校時の調理室の設備や音楽室の防音構造が残されており、より充実した活動を行うことができる。そのほか、図書の貸し出しや地域団体の活動が行われる。

4. 行政の拠点

七会支所の機能を引き継ぎ、証明書の発行など窓口業務を行う。また、災害時の避難所として、地域の防災や安全の拠点となる。

(3) J1昇格のライセンス取得⁴

現在の水戸ホーリーホックのホームスタジアムであるケーズデンキスタジアム水戸は収容人数12000人である。これはJ1の施設基準を満たしていない。そこでクラブは、2019シーズンのクラブライセンス申請にあたり、入場可能数15000人を満たしている笠松運動公園陸上競技場(約22000人収容)をホームスタジアムとして申請し、解除条件付でJ1クラブライセンスが交付された。

現状の笠松運動公園陸上競技場はJ1クラブライセンスの施設基準を満たさない項目がある。施設基準のうちトイレの数および屋根のカバー率に関する基準を満たしておらず制裁の対象となっている。J1昇格が決まった際には、具備しなければならない条件を2019シーズンのJ1リーグ開幕前日までに充足しなければならない。しかしJ1昇格が決まらなかった際には、これ

まで同様ケースデンキスタジアム水戸をホームスタジアムとして使用することとなる。その際には付与された J 1 クラブライセンスが効力を失い、J 2 クラブライセンスに変更されることになる。

* J リーグ規約 第 16 条 [J 1・J 2 クラブの入れ替え]

- (1) J 1 における年間順位の低位 2 クラブが J 2 に降格し、J 2 における年間順位の上位 2 クラブが J 1 に昇格する。
- (2) J 1 における年間順位 16 位のクラブと J 2 における年間順位 3 位から 6 位のクラブが参加する J 1 参入プレーオフの優勝クラブが J 1 に残留または昇格する。

* J リーグクラブライセンスは 5 基準に分かれており、以下に主な審査基準項目を示す。⁶

1. 競技基準：育成部門の整備や選手との契約締結義務など
 - ・アカデミーチーム (U-18・U-15・U-12・U-10) の保有 (A 等級)
 - ・女子チームを保有 (C 等級)
2. 施設基準：スタジアム、練習場の確保やそれらのスペックなど
 - ・スタジアムの入場可能数について、J 1 は 15000 人以上、J 2 は 10000 人以上 (A 等級)
 - ・スタジアムの観客数 1000 名あたり、洋式トイレ 5 台以上、男性用小便器台以上を備えていること (B 等級)
 - ・スタジアムの屋根の設置。観客席の 3 分の 1 以上 (B 等級)、観客席すべて (C 等級)
 - ・クラブが年間を通じて使用できるトレーニング施設の保有。天然芝もしくは人工芝のピッチ 1 面・屋内トレーニング施設・クラブハウス・メディカルルームがあること (A 等級)
3. 人事体制・組織運営基準：組織運営基準：部門別担当者の配置など
 - ・指定された資格を持つ財務担当、運営担当、セキュリティ担当、広報担当、マーケティング担当・医師・理学療法士を置くこと (A 等級)
 - ・監督・コーチは日本サッカー協会 (JFA) 公認の適切な指導者資格を保有していること (A 等級)
4. 法務基準 組織運営基準：部門別担当者の配置など
 - ・同じ競技会に出場している他クラブの経営等への関与を行わないこと (A 等級)
 - ・顧問弁護士を置くこと (C 等級)
5. 財務基準：適法かつ適正な決算、監査の実施など
 - ・年次財務諸表を提出し、審査を受けること。3 期連続の赤字を計上していないこと、および債務超過でないこと (A 等級)
 - ・給料の未払い等が生じていないこと (A 等級)

* 3 つの等級

A 等級：達成が必須。達成しなければライセンスが交付されない。

B 等級：達成しなかった場合は、制裁が科された上で、ライセンスが交付される。

C 等級：達成が推奨されるもの。ライセンス交付には影響しない。

まとめ

新たな練習場とクラブハウスを獲得し、J1クラブライセンスが交付され、環境整備が進んできたことが選手を後押しし、今季のここまでのチームの躍進につながっている。しかし、ここまでの道のりは苦節を極めたものである。

一つの組織が変わるためには、その組織のトップが変わることとその組織を取り巻く環境を整備することが必要不可欠である。また、組織内部だけの改革だけではなく、実際に外に足を運び地域と連携しネットワークを拡張していくことが重要である。

そしてクラブは創設25周年の節目を迎えるにあたり、「人が育ち、クラブが育ち、街が育つ」というクラブ理念の原点に立ち返り、今後益々地域の活性化に資する社会貢献活動を強化していくために、2019年3月、「一般社団法人ホーリーホックIBARAKIクラブ⁶」を設立した。地域が活気にあふれ、住むこと、訪れることが楽しくなるよう、スポーツを通じて、多様な組織と連携しながら、幅広い領域で地域課題解決に貢献していく組織を目指していく方針を示している。

長年J2にとどまっている水戸ホーリーホックだが、今年こそJ1に昇格し、クラブと地域の更なる発展を期待したい。そしてJ1の舞台上鹿島アントラーズとの茨城ダービー対決が実現されることを切に願う。

脚注

¹・水戸ホーリーホックのJ1昇格のためにホームタウンの広域化を <https://ameblo.jp/trump-062127/entry-11404828877.html> (2019年5月現在)

・「輝かしくない」水戸ホーリーホックが、3年連続黒字となった「3つのきっかけ」 <http://jiron.jp/j220141003.php> (2019年5月現在)

² 日本フットボールリーグ(JAPAN FOOTBALL LEAGUE、略称:JFL)は、日本サッカーの普及・発展に大きく寄与した日本サッカーリーグ(1965~92年)、ジャパンフットボールリーグ(1992~98年)を受け継いで、1999年春に9チームが参加してスタートした。

³ 城里町公式ホームページ <http://www.town.shirosato.lg.jp/page/page003376.html> (2019年5月現在)

⁴水戸ホーリーホック公式ウェブサイト 2019シーズンに関するJ1クラブライセンス交付について <http://www.mito-hollyhock.net/news/11290/> (2019年5月現在)

⁶ Jリーグクラブライセンス制度とは <http://d.hatena.ne.jp/keyword/J%A5%EA%A1%BC%A5%B0%A5%AF%A5%E9%A5%D6%A5%E9%A5%A4%A5%BB%A5%F3%A5%B9%C0%A9%C5%D9?kid=438594#p3> (2019年5月現在)

⁶ スポーツを通じて、スポーツの発展と地域課題の解決に関する事業を行い、地域社会の活性化とスポーツ文化の創造に寄与することを目的とし、その目的に資するための事業を行う組織である。